



令和6年8月19日

地域保健推進課 感染症対策担当
担当：佐々野、窄口
内線：4806
電話：095-895-2466（直通）

令和6年度複十字シール運動にあたっての知事表敬訪問について

このことについて、下記のとおり表敬訪問が行われますのでお知らせします。

記

- 1 日時：令和6年8月26日（月） 16時40分から17時まで
- 2 場所：県庁 特別応接室
- 3 対応者：大石知事
- 4 訪問者：公益社団法人 全国結核予防婦人団体連絡協議会長崎県婦人会
（一般財団法人 長崎県地域婦人団体連絡協議会）
会 長 兒玉 涼子 （こだま りょうこ）
副会長 大久保 てるひ （おおくぼ てるひ）

公益財団法人 結核予防会長崎県支部

（公益財団法人 長崎県健康事業団）

理事長	森崎 正幸	（もりさき まさゆき）
常務理事	上田 彰二	（うえだ しょうじ）
事務局長(兼)総務課長	濱崎 敏朗	（はまさき としろう）
総務課課長	村尾 伸二	（むらお しんじ）
総務課	川嶋 真理子	（かわしま まりこ）

5 訪問目的：

複十字シール運動期間（毎年8月1日から12月31日）の開始にあたり、全国一斉に（公社）全国結核予防婦人団体連絡協議会各都道府県婦人会と（公財）結核予防会各都道府県支部が知事を表敬訪問し、結核の現状報告および本運動にあたっての協力をお願いする。



複十字シール運動について

結核予防会複十字シール運動キャラクター
【シールぼうや】

1 複十字シール運動とは

複十字シール運動は、結核征圧のための募金と、募金媒体である複十字シールによって人々の健康と幸せを願う気持ちを伝える運動です。

寄付を募り事業者がそれを目的達成のために使うというのが一般的な募金のあり方ですが、複十字シール運動には、それに留まらず募金者が自らシールを使うという行為を通じて、結核征圧の一翼を担う意味が含まれています。

＜主 催＞公益財団法人結核予防会及び結核予防会都道府県支部

＜後 援＞厚生労働省、文部科学省、全国結核予防婦人団体連絡協議会

2 運動の成り立ち

1903年、デンマーク人の一人の郵便局員が、まん延していた結核について、「誰でも手頃な値段で買えるシールを郵便物に貼ってもらい、その収益で子どものための結核診療所を作れないか」と考えたことが始まりです。この運動は世界中に広まり、今では約80カ国で独自の複十字シール運動が行われています。

3 結核予防会と日本の運動

結核予防会は、昭和14年、皇后陛下の令旨に基づき閣議決定され、同年5月20日に設立されました。亡国病と言われた結核を征圧するため、当初から全国の結核予防会支部、結核予防婦人会等、組織をあげて活動してきました。令和元年には創立80周年を迎え、総裁の秋篠宮皇嗣妃殿下のもと、途上国での結核対策支援を幅広く行いつつ、途上国の結核対策専門家の育成にも力を注いでいます。

複十字シール運動は、昭和27（1952）年に始まり、結核予防会の公益事業の根幹をなすものです。国際協力や国内の活動の貴重な財源となっています。

※複十字とは

9世紀頃にあるキリスト教派の象徴として使われていた。十字軍の指揮官が楯の紋章として戦ったことから、平和と希望の象徴となり、1902年第1回国際結核会議（ベルリン）にて結核予防運動のシンボルマークとすることが決定された。

<参考資料>

(1) 募金額の推移

(単位：円)

	R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度
長崎県	1,651,533	1,605,741	1,670,771	1,593,937	1,754,048
全 国	177,779,971	146,199,939	169,496,607	181,736,480	263,005,787

(2) 新登録結核患者数

(単位：人)

	R5年※	R4年	R3年	R2年	R元年
全 国	10,096	10,235	11,519	12,430	14,460
長崎県	123	137	175	145	174

※速報値（出典：結核研究所 疫学情報センター）

(3) 新登録結核罹患率

(人口10万人対)

	R5年※	R4年	R3年	R2年	R元年
全 国	8.0	8.2	9.2	9.9	11.5
長崎県	9.6	10.7	13.5	12.4	13.1
全国順位（下位）	6位	3位	1位	5位	10位

※速報値（出典：結核研究所 疫学情報センター）

(4) 全結核患者死亡者数

(単位：人)

	R4年	R3年	R2年	R元年	H30年
全 国	1,664	1,845	1,909	2,204	2,303
長崎県	21	29	31	23	30

(出典：結核研究所 疫学情報センター)